



5日に会見を開き第7次中計を説明し

中期経営計画(21~24年度)は、24年度の売上高5440億円、営業利益386億円、営業利益率7.1%を目標に掲げていた。24年度の推定売上高は5624億円(当

で達成を見込む一方、円安によりアルミ等の原材料や諸経費が高騰したこと、営業利益164億円(同57.6%減)、営業利益率2.9%(同4.2ポイント)と未達を予測している。第7次中計では、円安に負けない収益構造を目指す。重点

窓のシェア拡大を目指す」と話す。

また、輸送費が上昇していることから、販売市場と輸送効率を考慮した製造体制を整える。25年度中に、九州製造所に偏っていたエクステリアの製造を東北製造所へ分散し、輸送を効率化する。

海外事業は、28年度の売上高1597億円(同50%増)を掲げ、販売量の拡大を目指す。北米では西海岸に新工場を設立するほか、住宅用窓サッシの販売エリアを拡大する。また、ドイツに新規参入し、カーテンウォールの販売を目指す

部長高橋真▽同 人事部 部長山口剛史▽営業本部 部長補佐(構造改革担当)(事業本部副部長長(特命担当)) 執行役員森下昌樹▽内部監査室長(内部監査室担当部長) 松井祥▽事業本部PB事業部長 賀PB工場長(事業本部PB事業部敦賀PB部PB事業部敦賀PB

クロノスパン(オーストリア・ザルツブルク、マチアス・カインドル社長)は3日、ジューグラー(ドイツ)のルーマニア・セベス工場を買収したことを発表した。欧州委員会の最終審査を経て、夏前には取引が完了する見込み。ジューグラーグループは2024年11月に債務不履行を起こしたが、日本向けにWウッド間柱を供給していたセベス工場は、その後も管財人が経営し日本向けにも供給していた。クロノスパンは製材事業に本格参入する。

1日に契約が締結となり、総生産量はパーれたが、購入価格は明ティクルボード(Pらかにされていない。B)を中心に年間1800万立方メートル、従業員は1万4000人超に130年超の木質パネルの総合メーカーで、年商は約1兆2000億円。世界41工場から

SBを中心に、低メラ

ジューグラーのセベス工場を買収

クロノスパン

夏に取引成立見込み、製材に本格参入

PBを含めて10年以上の実績がある。近年同社は投資拡大に意欲的で、北米のPB工場などを相次いで買収している。いまや世界規模の木質パネル

セベスでPB・MDF工場を運営し、ジューグラーのセベス工場はそのすぐ隣に位置している。これまでも両社工場をパイプラインでつなぎ、製材の端材をポ

24年11月に持ち株会社であるジューグラーホールディングスと、約40の子会社の半数以上が破産申請した。その後、25年2月にレットンマイヤー

24年11月にセベス工場の木材製品の生産量は月間約3万5000立方メートルで、約500人が従事する。日本向けはWウッド間柱を、ピーク時には同6500立方メートル、24年は同4000立方メートル前後を安定的に供給していた。

クロノスパンは今回の買収を契機に、製材事業へ本格参入する。同時に、買収したセベス工場と自社セベス工場(PB・MDF)、ブラショフ工場(OSB)と連携するとともに、セベス製材工場に設備投資する計画も表明している。

メーカーだが、製材事業を元に会社を起した。英国では1987年から、そのほかポーランドでも製材工場を運営している。同社はルーマニアの

部長高橋真▽同 人事部 部長山口剛史▽営業本部 部長補佐(構造改革担当)(事業本部副部長長(特命担当)) 執行役員森下昌樹▽内部監査室長(内部監査室担当部長) 松井祥▽事業本部PB事業部長 賀PB工場長(事業本部PB事業部敦賀PB部PB事業部敦賀PB